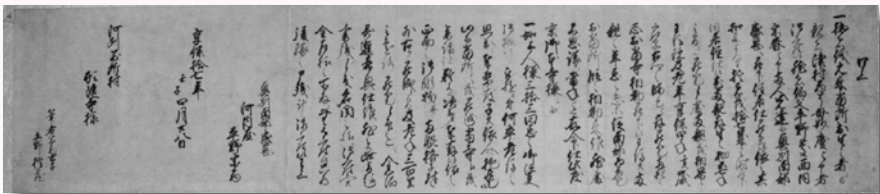


頓隨寺に宛てた河内屋の手紙

西田 孝司

奥州・盛岡の平野五郎兵衛 享保四年、故郷別所に帰る

別所生まれで、今は盛岡(石手県)に住む河内屋、平野五郎兵衛は、元禄十六年(一七〇三)、氏神の熱田神社に「熱田大明神」額を奉納しました(「歴史ウォーク」182)。



平野五郎兵衛(宗西)の「口上」(別所5丁目・吉川正章氏蔵) 別所生まれの五郎兵衛の両親のこと、盛岡へ移ったこと、老年になった五郎兵衛が享保4年(1719)に頓隨寺にお詣りしたことを述べている。享保17年(1732)に末子の平野権蔵が書いた。



頓隨寺の手洗石(別所6丁目・頓隨寺蔵) 大坂在住の河内屋喜右衛門(宗山)が享保21年(1736)に寄進した。

五郎兵衛は、伯父の平野慶西と宗春が盛岡に移っていたので、十七歳の時、奥州に下ったのです。しかし、故郷忘れがたく、老年になった享保四年(一七一九)、別所を出て初めて生所に戻ってきました。その時、檀那寺である頓隨寺真宗大谷派、歴史ウォーク(11)にお詣りし、のち同寺に手紙を宛てました。それは、次のように「口上」とあり、五郎兵衛家ゆかりの吉川正章さん宅(別所5丁目)に保存されています。

口上

一、拙者儀元来当所出生之者二而／親者津村西了母妙慶ト申者／御座候然者伯父平野慶西同／宗春ト申兩人

河州別所村

頓隨寺様

筆者宗西末子

平野権蔵

(注：／は改行)

五郎兵衛は、父の津村西了と母の妙慶が亡くなり、自分も老年と

先達而奥州南部／盛岡へ罷下住居仕罷有候依テ其／控ニヨリ拙者茂拾七歳之時罷下／同居住仕候尤両親存生之砌五七年／之間ニハ罷登之所両親茂相果テ／已後既及老年享保四年亥歳／最早古郷之暇之卜存罷登両親之志等当寺相勤罷下候口已後共両親之年忌之志等從南部為差登／御当所依々相勤来候然所／不思議ニ当年迄存命仕此度／京御本寺様二而／一如上人様三拾三回忌之御法事／御執行被遊ニ付何卒老後之／思出ニ奉祭度子供依介抱罷登候／依而當所へ茂罷越当寺江茂／參詣仕難有次第奉存候依テ／正面之御彫物并而脇格子殊之／外古ク罷成候間及老年三百里／之遠路罷登候印迄ニ金箔／寄進再興仕候然共此旨趣／書殘シ候義名聞之様ニ御座候へ共／全左様之所存ニ無御座候只為／後縁ニ申残計御座候已上

奥州南部盛岡

河内屋

平野宗西

享保十七年

壬子四月二十八日

なったが、享保四年、京都の東本願寺で十六世法主であった一如上人の三十三回忌が行われたことから、父母の供養もあり、本山と別所を訪れたのでした。子供に介抱してもらいながら、これが最後の故郷への暇乞いともなったのです。

頓隨寺の本堂に上がると、欄間の彫物や格子が古くなっていたので、金箔を施した彫物などを寄進したと記しています。

この記述に関して、欄間に「宝暦六丙子七月日 施主大坂上難波町河内や宗山」と書かれた彫物が現存しています。五郎兵衛宗西と大坂の河内屋宗山との関係はよく分かりませんが、宗山も別所出身と思われる。彼らが、享保四年や宝暦六年(一七五八)に、欄間を寄進したのです。

宗山は、熱田神社にも元文二年(一七三三)に石鳥居を、また宝暦十年(一七六〇)に常夜燈を奉納しており、河内屋喜右衛門の名でも知られています。

頓隨寺本堂前に、手洗石が残されています。そこに「享保丙辰歳正月吉日施主大坂河内屋喜右衛門」とあり、享保二十一年(一七三六)に、宗山が寄進したものです。

河内屋の人々は、熱田神社とともに、頓隨寺にも寄進を行い、故郷を思ふたことでしょう。